



C.P.I.

The Committee for Promotion to Innovate Japanese
People by Educational and Cultural Contact, since 1979

教育文化交流推進委員会

1810005 東京都三鷹市中原 2-16-9
E-mail: cpimate@gmail.com

TEL& FAX: 0422-49-3808
URL <http://www.cpi-mate.gr.jp>

2022年度事業報告

認定 NPO 法人 C.P.I.教育文化交流推進委員会

The Committee for Promotion to Innovate Japanese people
By Educational and Cultural Contact
Authorized by Japanese Government

C.P.I.会員だからこそその楽しさを、もっと周囲に伝えましょう。

私は脳梗塞の後遺症で言葉が不自由になりましたが、その分、書けています。皆様も手紙でも E-MAIL でもいいので送って下さい。必ず返事を送ります。伝えられるのは、楽しいことだと思います。楽しみを増やし合いましょう。

奨学修了者から里親への手記を読むと、「ありがとう」の聲が寄せられています。数年前から、年末の会報で、スリランカからの奨学修了者からの手記を、掲載しました。2年間、インドネシアからは残念ながらもらえませんでした。ひとりでも多くの方の目に触れて戴きたい内容でした。

大学を優秀な成績で出て、現在高い地位にいる奨学修了者でも、卒業後の紆余曲折を経て、今があることを知ることができます。私が提唱している『学び合いの国際協力』に協力する人は、沢山います。ようやく一緒にするときが来ましたね。嬉しいことです。

C.P.I.の教育里親さんから「卒業した後に、どのように過ごしているのか心配です」とのご質問がありました。現在では成功している修了者から手記をもらえるのではないかと考えました。各地の修了者との連絡をつけるのは難しかったのですが、手記の内容について何回も詰めていき、皆様によく分かるものになったかと、思います。今後も、彼らとの連帯を以て、奨学修了者が後輩に教育支援を進める努力を続けます。

皆様も、教育里子や知り合った人に、ご自分が楽しかったことを、小さなことで良いので、書いてあげてください。それはきっと、あなたご自身の楽しさになりますよ。C.P.I.の理事のおひとり、毎年スリランカへの交流団長という大役を引き受けて下さっています。ハーモニカも折紙もお得意なので、行く先々で人々を楽しませています。彼にはそのスキルがあるからできるのですが、きっと楽しむことを楽しんでいるのだ、素敵だと思います。

一昨年、最も長く教育里親を続けて下さっている会員さんのお一人から、スリランカで里子たちと会えたことの、嬉しいお手紙が届きました。振り返れば、2000年の初めに、『21世紀に向けたビジョン』を発表しまして、C.P.I.の向かう道筋を示し、一緒に歩いていきましょうと、呼びかけを行いました。今回、その方から、「前に戴いたビジョンどおり、日本からの奨学金を、インドネシアから始めて現地修了者への現地運営者の移し替えを開始したのは、素晴らしい決断だ」と言って戴きました。

教育里親さんお一人おひとりの想いをお聞きする機会も少なく、それが残念なこの頃でした。それだけに、戴いたお手紙には、とても励まされました。有り難うございました。

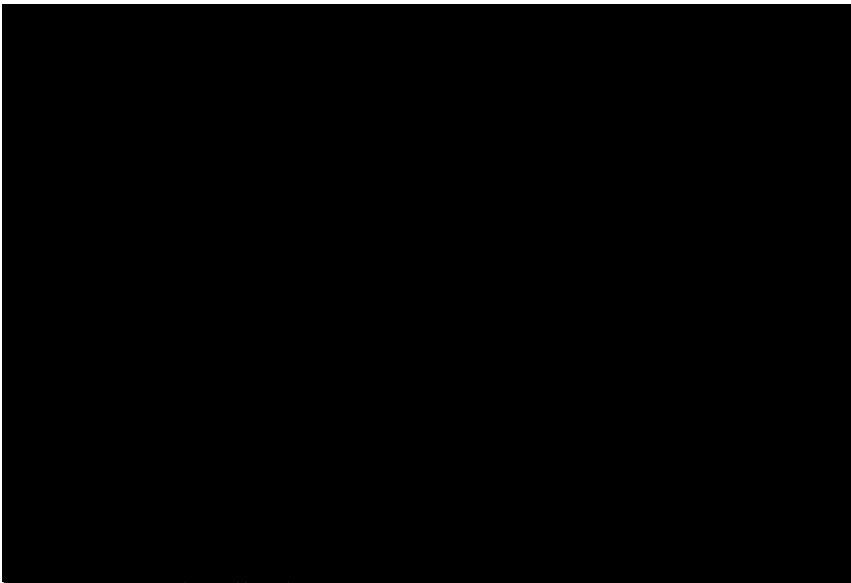
インドネシアで、2017年から奨学修了者会を組織しました。一方、対インドネシアの修了者の教育里親さんにお願ひ、スリランカ内戦後に苦しんでいる子どもたちへの支援も広げようと予定しています。現在も数百名の方々との語り合いがあります。

そのような連携を広げて『民族和解を広げていく』考えです。賛同戴き、有り難うございます。

スリランカでは、UNHCRの難民キャンプから強制的に退去させられながら、故郷に戻れない子どもたちが困窮しているので、支援が必要と分かりましたから、手を打っているところです。

何でも楽しさを追わないと毎日がつまりませんよ。そういう手紙や E-MAIL が来るのを待ってます。

『学び合いの国際協力』活動を行う楽しさを、人々に知って戴く必要があります



左の写真は、2017 年度に築地本願寺で行われたプロモーション活動の催事です。会場は満員でした。C.P.I.会員になると、楽しみ満開なわけです。

この楽しみをもっと伝えることで、C.P.I.に入る人は増えるはず。そして里子に会いに行けば、もっと楽しくなるはず。

写真中央の方は、在日スリランカ大使閣下です

インドネシア・東ジャワ州においては、C.P.I.との交流を記念する塔があります。中部ジャワには、開発した650ヘクタールの農村が広がり、コミュニティカレッジ発足の西ジャワでは、地域ぐるみで歓迎されます。2015年にコミュニティカレッジを拓いたインドネシア・南スラウェシ島の漁村では、海の幸が迎えてくれます。

スリランカでの楽しみは、歌と風景と人の心に触れあえることです。歌は何時間聞いていても気持ちが和みます。風景のよさは、いわずもがな。福祉社会がいつまでも生き続けることを願っています。学べることは、いろいろあります。

C.P.I.で創ってきたものは、「世の中を楽しくする」ことです。受け継いでくれる人を探しましょう。

C.P.I.がしてきたことは、要するに、若くて希望に溢れている人が、何らかの事情で学びを継続できないでいるいる背中を、『教育里親』として押してあげる、ということを手助けさせてもらう仕事だということです。

もちろん、その過程では、交通事故や、環境による病気で亡くなる人もいますので、大きなプロジェクトで後押しする必要もあるわけです。(交通事故防止セミナーや浄水器の設置など)

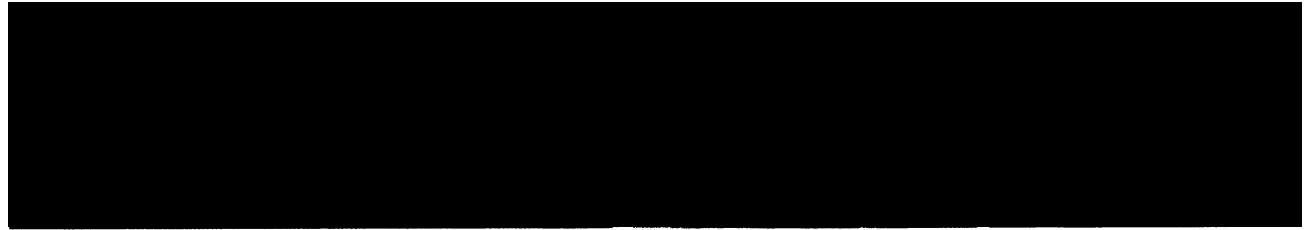
でも、C.P.I.は、金持ちが運営してる団体ではない。奨学金を流用するわけにもいきません。だから、世界銀行とか、ADB や UNISEF (本部) のような国際組織や、政府筋や、現地のキャピタルファンド・大きな大学との協働を図ってきました。。

そういうことをガンガン進められる人がいないと、C.P.I.の運営は難しいと言いたいです。逆に言えば、今までのようにできる人を探しています。

これは、簡単ではないです。宜しくお願いします。

貧困な人々の自立を助ける活動を行っています(定款第七条1項2号)

インドネシアでの教育支援は、かなり前に、農・山・漁村地域の実務高校生対象に、シフトしました。時代の変遷により、そのほうが、教育支援効果をあげることができると確信しています。今、日本と連携する教育開発が進んでいます。大学とも有力財団とも協定を結びました。



2013年に竣工させた南スラウェシ州パンカプのコミュニティカレッジ。漁業改革を午前中は中学生に、午後には漁民に教育。現地政府においても、新しい教育科目を導入
西部ジャワ州・チアンジュール市にある薬剤師養成高校。在校生 124名中22名が里子です
中部ジャワ州・スマラン市の山村農業改革研修会。その山村部には教育里子がいる

C.P.I.の活動への日本での参画を呼びかけてきました(定款第七条1項3号)

(1)インドネシアでのチャリティ活動に賛同して下さる市民との連携を、進めました。

<http://www.indonesia-festival.com>

被災地の命を守る。『コラボ・奇跡の水』を子どもたちに！



スマホでQRコードを読み取ってください。
←車載浄水機の様子が分かります



続々と起きる天災の被災者の飲料水を配給するために、車載浄水機を開発しました。本体に企業ロゴを印刷する『コラボ・奇跡の水』への企業を募集中

(2)これまで、インドネシアでコミュニティカレッジの運営に努力する人々の先頭に立っていました。
(3)2000年度以降、これらのコミュニティカレッジが持続するよう、現地との相談・励ましを行っています。

日本も昔、アメリカから学んだのですから、アジアのリーダー役を果たしましょう。

- ① 2003年に正規薬剤師資格を得られる薬剤師養成高校を西ジャワ州・チアンジュールに
- ② 2005～2008年に世界銀行と組み、高地農業改革組合を中部ジャワ州・スマランに
- ③ 2013年に資源管理漁業の大切さを教える中学校を兼ねた生涯教育学校を、南スラウェシ州パンカプ市に、設立

これらは、教育支援金を使用せずに、参画者の楽しみも創っていますから、一石二鳥ですね。いろいろ考えると楽しいですよ。

教育里親制度プログラムの継続推進（定款第七条1項1号）

(1) 貧困家庭にありながら学業成績優秀な学生への教育支援を行いました。

① スリランカ教育支援では、奨学生当りの教育支援金は現地ルピーで例年水準を維持しました。

教育支援金 2022 年度 スリランカ奨学生数（但し C. P. I. 教育里親で受け持つ奨学生に限る）

学年	9年生	10年生	11年生	12年生	13年生	AL 試験再受験者	合計
人数	54名	35名	24名	24名	135名	74名	346名

スリランカ教育支援の 2022 年度実績（金額単位：千円）

	2022年度	
	実績	備 考
里親数/里子数	324/346	
認証式支給学用品	3,000	ひとり当たり支援額を、維持する
毎月支給奨学費	5,100	補習クラス、特待生補助、通学、薬代等
年内支給奨学費	400	通学靴、制服仕立費、写真代
	(8,500)	
卒業生活動補助	0	支援できる卒業生活動を推進できなかった
調査・報告作業費補助	0	日本側は報告・広告費に計上した
	(0)	
	8,500	

② インドネシア教育支援金は、2024 年度から、在学奨学生当り、5 人の奨学修了者で支援する予定です。日本のインドネシアへの教育里親だった方には、スリランカ内戦終了後に故郷に戻れず、生活に苦しんでいる子ども支援に回って戴きました。ご賛同有難く思います。

教育支援金2022年度 インドネシア奨学生数（但し、C.P.I.教育里親で受け持つ奨学生に限る）

学年	高校1年生	高校2年生	高校3年生	大学生	合計
人数	0	0	19	40	59

インドネシア教育支援の 2022 年度実績（金額単位：千円）

	2022 年度	
	実績	備 考
里親数/里子数(人)	59/59	
高校生学費	334	中学生支援は、政府が「完全義務教育制」に踏み切ったことを機会に、奨学制度から一度外すことにした
中高生試験費	上に含む	
大学生学費	687	大学2年生まで学費支援を行っている
教育里子会の活動	0	教育里子の集会・彼らの社会活動などを支援
調査・日常把握等		地域リーダー・アシスタントの交通費・電話・郵送・その他の経費
電話・郵便・交通費等		
合計	1,021	

- (2) インドネシアの教育里親に対する里子の状況報告を、昨年末に行いました。
- (3) スリランカの現地報告を、昨年末に行いました。
- (4) 会報を12月に発行しました。

『教育協力の C.P.I.』の真価を問われるのは、これからです。

以前、教育関係の国際協力をしている NGO の集まりで、『我々は、どこまで来たのか』という冊子を作ったことがあります。

私 [] も発表者のひとりとして、教育支援の難しさを語った記憶があります。

インドネシアでは、[] が教育運営をしていましたが、C.P.I.の規則にある『会員の義務』にととても感心して下さいました。

スリランカでも、規則を破った方が教育里子に大金を与えたので、子ども（女子）が綺麗な服で毎日ディスコ通いをするようになり、結局は奨学生から外れた例があります。

「何のための学習か」

問い直す必要がある、と私は考えます。

今は SNS の時代ですね。C.P.I.も、これを活用する方法を試みるべきでしょう。とくに、若い英知を集めたいと思います

メタバースは、これから検討すべき SNS です。

インスタグラムは自己宣伝の道具としては、いい SNS ですね。

YouTube は役割を模索していると感じます。

ビジネス Facebook の利用は良さそうですが、検討中です。

『教育』 = 『為政者の道具』はもう、たくさん。

『教育』が、『未来に向けた発想の道具』として機能するように、どのように SNS を使えばいいのか、お智恵を戴きたく宜しくお願いします。

令和4年度（2022年度）決算報告書

（非営利活動に係る事業 総括表）

自 令和4年（2022年）4月1日
至 令和5年（2023年）3月31日

寄付控除認定 特定非営利活動法人
C.P.I.教育文化交流推進委員会

2022年特定非営利活動に係る事業 総括会計収支計算書

2022年4月1日から2023年3月31日まで

認定特定非営利活動法人
C.P.I.教育文化交流推進委員会
(単位:円)

勘定科目	金	額
(経常収支の部)		
I 経常収入の部		
正会員入会金収入	3,000	3,000
寄付金収入		
事業推進費収入	5,631,000	
スリランカ教育支援金収入	8,496,000	
インドネシア教育支援金収入	1,021,000	
賛助支援金収入	220,000	
一般寄付金	1,035,000	
国際協力応援団寄付	0	16,403,000
運用財産利息収入(国内)	200	200
運用財産利息収入(インドネシア)	0	0
経常収入合計		16,406,200
II 経常支出の部		
事業推進費(別紙)	7,612,815	7,612,815
教育支援事業費		
スリランカ教育里親制度プログラム	8,500,000	
インドネシア教育里親制度プログラム	1,021,000	9,521,000
インドネシア元・奨学生会 活動支援	0	0
特別会計支出(KITAS取得等)	0	0
海外派遣費	0	0
国内派遣費	0	0
地域会活動費	0	0
総会関連費	162,338	162,338
報告・広報費	214,529	214,529
IT広報費	275,698	275,698
経常支出合計		17,786,380
経常収支差額		-1,380,180
III その他資金収入の部		
IV その他資金支出の部		
当期収支差額		-1,380,180
前期繰越収支差額		48,162,098
次期繰越収支差額		46,781,918

(別紙:事業推進費)

(単位:円)

専務者給与	3,588,000
職員給与	1,626,000
雑給	12,500
法定福利費	227,160
福利厚生費	8,626
旅費交通費	10,000
交際費	0
郵便料	127,054
国内電話料	261,480
海外電話料	850
会議費	0
消耗品費	36,374
事務用品費	0
運搬費	0
水道光熱費	194,432
賃借料	611,400
図書研究費	25,498
支払手数料	100,870
諸会費	34,050
リース料	12,100
雑費	675,258
保険料	42,360
修繕費	18,803
租税公課等	0
事業推進費 合計	7,612,815

2022年度 特定非営利活動に係る事業 会計総括貸借対照表

2023年3月31日現在

認定特定非営利活動法人
C.P.I.教育文化交流推進委員会
(単位：円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額
(流動資産)		II 負債の部	
現預金	50,193,036	(流動負債)	
前渡金	5,000,000	前受金	9,440,000
短期貸付金	961,382		
預け金	67,500		
流動資産合計	56,221,918	流動負債合計	9,440,000
(固定資産)		(固定負債)	0
その他固定資産	124,984	固定負債合計	0
固定資産合計	124,984		
		負債合計	9,440,000
		III 正味財産の部	
		正味財産	46,906,902
資産合計	56,346,902	負債及び正味財産合計	56,346,902

(資産の部の註記事項)

- 註1: 2022年度のスリランカ教育里親制度プログラムに係わる、2021年度内のSNECCへの前渡分
- 註2: 現地CMに、LL及びその家族にコロナ禍の問題が起きたときの緊急対処筋を渡しておくため
- 註3: 三鷹市北野の本部作業所の敷金
- 註4: 電話権利代残高(長期に継続残)

(負債の部の註記事項)

- 註5: 2022年度の奨学金の一部を前受けする。

2022年度 特定非営利活動に係る事業 総括会計 財産目録

2023年3月31日現在

認定特定非営利活動法人
C.P.I.教育文化交流推進委員会
(単位:円)

勘定科目	金	額
I 資産の部		
(流動資産)		
現金預金		
現金	73,517	
郵便振替センター	1,302,063	
みずほ銀行調布仙川店(普)	273,789	
みずほ銀行調布仙川店(寄付窓口)	31,127	
みずほ銀行調布仙川店(北野家賃)	30,220	
三菱東京UFJ銀行本店(普)	5,155,433	
三菱東京UFJ銀行本店(US\$)	5,612	
HNB Colombo(スリランカ 円口座)	0	
BOTM Jakarta(インドネシア 円口座)	0	
CIMB NIAGA(インドネシア Rp.口座)	10,110	
BRI Jakarta(インドネシア RP.当座)	2,750,228	
BRI Jakarta(インドネシア Rp.普通)	564,950	
インドネシア Rp 現金	3,139	
インドネシア 女性組合定期預金	39,992,848	50,193,036
前渡金(註1)	5,000,000	5,000,000
短期貸付金(註2)	961,382	961,382
預け金(註3)	67,500	67,500
流動資産合計		56,221,918
(固定資産)		
その他固定資産(註4)	124,984	124,984
固定資産合計		124,984
資産合計		56,346,902
II 負債の部		
(流動負債)		
前受金(註5)	9,440,000	9,440,000
流動負債合計		9,440,000
(固定負債)		
固定負債合計		0
負債合計		9,440,000
III 正味財産の部		
正味財産		46,906,902

2023年度 特定非営利活動に係る事業 会計総括財産目録の注釈

インドネシア内現地通貨預金につき、現地通貨勘定と円勘定を対比して記する。

	(現地ルピア価額)	(円価額)
インドネシアRp.普通口座(CIMB NIAGA)	Rp1,186,338	11,000
インドネシアRp.当座口座(BRI Jakarta)	Rp277,931,445	2,750,228
インドネシアRp.普通預金(BRI Ambasodor Mal)	Rp65,226,785	564,950
インドネシア Rp 現金	Rp389,499	3,139
インドネシア Rp.定期預金(組合定期)	Rp3,355,000,000	¥39,992,848

(特記 1)

円の帳簿価額とインドネシアRp.による現預金勘定の移動平均法により、2023年3月31日時点の為替レートを算出。組合定期を除く期末の残高合計Rp.344,734,067-を、円の同じく総額3,329,317円で割ると時価(1円=103.545)となる。最近の円安との乖離が問題だが、当会は円への戻入れを行わない前提で活動を進めているため為替の評価損益は計上しない。また、定期預金の円換算につき(1円=103.545)で計算すると、組合定期の簿価額39,992,848円と比較すると、円では大幅な評価損にあるが上記と同じ理由で為替の評価損益の計上を行わない。但し、近い将来、更正する必要があると考える。

(特記 2)

昨年も特記したが、組合定期に係わる処理につき、以下に述べる。

本件は、当会が企図していた『持続的社會開発活動』の準備中で、資金が浮いていたため、2009年からジョグジャカルタ地震被災の救済を行っていた女性組合(KOPWANI)との協働活動の一環とした、当会からKOPWANIへの、『資金預け』で発生した。2009年3月から2019年3月の10年を期限として設定。

2019年3月を期限到来として戻入れを約定した約定書がある。

設定当時、KOPWANIは、MINISTRY OF HOUSINGとの二人三脚で、貧困女性向けに家屋を提供する業務を行い、同MINISTRYが建設費の半額負担をし、さらに購入者の銀行ローンの保証を行う形で進めていた。

よって、特に同省から当会への約定はなかったが、KOPWANIは広大な土地を所有していたし、同MINISTRY大臣からの依頼もあり、信用して、当会は定期預金設置に応じたものであった。

しかし、2011年秋に、同MINISTRYが、その業務に関する方針を変えたため、KOPWANIが苦境に陥った。

当会としても晴天の霹靂であった。C.P.I.執行部は、2012年に、KOPWANIに対して、MINISTRY方針の変化を理由に全額戻入を申し入れたが、KOPWANIにとって、それは非常に難しい状況にあった。

問題は、当会からの資金を、KOPWANIが、当会に無断で、当時KOPWANIの上記家屋建設プロジェクトの責任者であった[]の口座に移動させたため処理が難しくなったことである。

イスラム法に照らしても、宗教上・道義上の大問題である。

KOPWANIは、家屋プロジェクト収入を以て、プロジェクト責任者の[]に処理させる、とのことであった。従って、C.P.I.執行部は、その実施作業を開始し、2014年3月までその作業を行っていたが首尾が叶わず、2016年、[]を本件代理人に指定して回収努力を続けてきた。

2020年3月の時点で、KOPWANI 現会長から、処理に係るスケジュールを示す文書が提出されることとなり、KOPWANIからは、当会が[]から土地権利書を預かり保管中の土地の替わり、KOPWANIと[]にとって有益な共同開発可能な土地を原資として、処理を行う方が、全面解決になるとのことであった。

そこで、定期預金設置時KOPWANI会長の署名入り文書で、三者交渉を設ける件を確約した。

2020年3月の時点で、KOPWANI 現会長から、処理に係るスケジュールを示す文書が提出されることとなったが、その時点でコロナウイルス禍が起り、期日等を延期して現在に至っている。

また、C.P.I.会長は、インドネシア・イスラムの最高指導者への接触を図り、道義面での解決も図っている。

この問題はイスラム法に照らしても政治的にも大きなことである所以である。

2022年 特定非営利活動に係る事業 総括会計 正味財産増減計算書

2022年4月1日から2023年3月31日まで

C.P.I.教育文化交流推進委員会
(単位:円)

勘定科目	金額		
正味財産増加の部			
資産増加額			
当期収支差額(プラス)	0	0	
増加額合計			0
II 正味財産減少額			
資産減少額			
当期収支差額(マイナス)	1,380,180	1,380,180	
減少額合計			1,380,180
当期正味財産額			-1,380,180
前期繰越正味財産額			48,287,082
当期正味財産合計額			46,906,902

役員名簿

(役員名簿及び役員のうち報酬を受ける者の名簿)

特定非営利活動法人 シーピーアイ教育文化交流推進委員会

1 確認事項 (法第20条及び第21条を確認しました。)

- 以下の役員には、欠格事由者が含まれません。(法第20条関係)
- 以下の役員は、親族の規定に違反していません。(法第21条関係)

2 役員一覧

	役名 (どちらかに○)	(フリガナ)	報酬の有無 (どちらかに○)	役職名等
		氏名		
1	理事	コニシ キクミ	有 (無)	会長
		小西 菊文		
2	理事	ヨコハマ ヒデノリ	有 (無)	副会長
		横濱 英紀		
3	理事	カトウ ヨシノブ	有 (無)	会計補佐
		加藤 凱信		
4	理事	ミヤハラ カツヘイ	有 (無)	インドネシア 交流担当
		宮原 克平		
5	理事	ムタ シンイチロウ	有 (無)	スリランカ 交流担当
		牟田 慎一郎		
6	理事	ウエダ キョウイチ	有 (無)	総務
		植田 恭一		
7	理事	タカハマ ケイコ	有 (無)	交流担当
		高嶋 恵子		
8	理事	サノ トモ	有 (無)	総務
		佐野 友		
9	理事	シバタ アサカ	有 (無)	書記役
		柴田 朝香		
10	監事	ハナリ ヨシミツ	有 (無)	監事
		塙 善光		
11	監事	クボタ ヒデオ	有 (無)	監事
		久保田 秀雄		

社員名簿 (社員のうち10人以上の者の名簿)

特定非営利活動法人シーピーアイ教育文化交流推進委員会

	氏名	
1	コシ 菊文 小西 菊文	
2	ヨハマ ヒデノリ 横濱 英紀	
3	カサキ ヨシノブ 加藤 凱信	
4	ミヤハラ カツヘイ 宮原 克平	
5	ムサシ シンイチロウ 牟田 慎一郎	
6	ウエダ キョウイチ 植田 恭一	
7	サノ ユウ 佐野 友	
8	シバタ アサカ 柴田 朝香	
9	タカシマ ケイコ 高嶋 恵子	
10	ハラタ ヨシミツ 塙 善光	
11	クビタ ヒデオ 久保田 秀雄	
12		